

## 平成 26 年度 第 2 回長野市総合計画審議会 会議録

日時：平成 26 年 9 月 5 日(金)

10 時 00 分～11 時 45 分

会場：長野市役所 第二庁舎 10 階 講堂

### 1 開会

(事務局)

定刻になりましたので、これから長野市総合計画審議会を開会いたします。

私、企画課の横山と申します。よろしくお願いいたします。

初めに、お断りをさせていただきますが、この審議会は、長野市の指針により、原則公開となっております。あらかじめご承知おきいただきますようお願いいたします。

ここで、資料の確認をお願いしたいと思います。本日の資料は、事前にお送りしました資料が 7 点ございます。

平成 26 年度 第 2 回長野市総合計画審議会 会議次第、平成 26 年度 第 2 回長野市総合計画審議会 資料集、第四次長野市総合計画、第四次長野市総合計画 後期基本計画、平成 25 年度 第四次長野市総合計画 後期基本計画 進捗状況(報告)、平成 26 年度版 第四次長野市総合計画 実施計画(主要事業計画)、人口減少時代に対応したまちづくりに関する提言になります。不足の資料等がありましたら、お近くの事務局職員にお申し付けください。

また、本日の会議に、寺内美紀子委員、堀江三定委員からご欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

それでは、会議次第に沿い、進行いたします。

はじめに、長野市長からあいさつを申し上げます。

### 2 市長あいさつ

(加藤市長)

おはようございます。市長の加藤でございます。

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

後ほど委嘱書を交付させていただきますが、この度は、お一人おひとりがご多忙のところ、審議会委員の委嘱を引き受けていただき感謝申し上げます。

この審議会は、長野市の最も上位に位置づけられる総合計画の策定や進捗管理を行う審議会であります。

総合計画は、多くの施策を総合的にまとめたものであって、長野市政の運営に当たっては、バイブルのような存在であり、大変重要な計画であります。

今年7月に、前審議会委員から人口減少時代に対応したまちづくりに関するご提言をいただきましたが、人口減少は国家的な問題であり、毎日のように新聞の紙面にも取り上げられています。長野市も、このままいくとどんどん人口が減少してしまいます。人口が減少すると、いろいろな面で活力がなくなってしまうので、国を挙げて対処すべき問題ですが、長野市としても、人口減少時代に対応したまちづくりに、全力で取り組んでいきたいと思えます。

今、一番の問題は、東京への一極集中です。高校まで手塩に掛けて育てた子どもが東京へ進学するのは良いのですが、関東方面で就職してしまい、長野市へ戻ってこないと困ってしまいます。

いきいきトークで各地域を回る際、お子さん、お孫さんには卒業したら長野市へ戻ってくるよう伝えてほしいとお願いしています。学生が卒業後に戻ってくれば、長野市の中小企業も人材を確保でき、市全体が活気づき、企業が強くなり、産業が発展するという良い循環になります。

変化が激しい世の中ですが、長野市役所でも迅速に手を打てるよう、変化に対応できる体制づくりを行っています。委員の皆様には、遠慮なく意見を言っていただき、審議会が実のあるものになるようご期待しています。よろしくごお願い申し上げます。

### 3 委員の委嘱

(事務局)

ありがとうございました。

続きまして、審議会委員の皆様への委嘱に移らせていただきます。

本来でしたら委嘱書を委員の皆様にお一人ずつお渡しするべきところですが、時間的な制約もあり、代表して50音順で1番目の有澤委員へお渡しすることで、ご了承いただきますようお願いいたします。

#### — 委嘱書交付 —

誠に申し訳ございませんが、市長は、他に公務がございますので、ここで退席させていただきます。よろしくお願いいたします。

## 4 自己紹介

続きまして、自己紹介に移らせていただきたいと思います。

まず、委員の皆様から、そして長野市の職員へとお願いたします。

### － 審議会委員及び事務局職員 自己紹介 －

## 5 会長、副会長の選出

(事務局)

続きまして、審議会の会長、副会長の選出に移らせていただきます。

長野市総合計画審議会条例第5条の規定では、「審議会に、会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。」と規定していますので、これをどのように取り扱ったらよろしいでしょうか。ご意見がございましたらお願いいたします。

(増山委員)

本日、初めてお会いする委員ばかりで、どなたを推薦したら良いかわかりませんので、会長及び副会長については、事務局に一任したらいかがかと思ひます。

(滝沢委員)

増山委員さんからお話があったように、私も初めてお会いする方がほとんどなので、事務局に一任したいと思います。

(事務局)

ただいま増山委員と滝沢委員から、事務局一任というご提案がありましたが、そのように取り計りたいと思ひますが、いかがでしょうか。

**【異議なし】**

(事務局)

ありがとうございます。それでは事務局から、会長には三浦義正委員、副会長には園原規子委員を推薦させていただきますが、皆様いかがでしょうか。

**【異議なし】**

ありがとうございました。出席の全委員のご賛同をいただきまして、本審議会の会長には三浦委員、副会長には園原委員に決定いたしました。

それでは三浦委員、園原委員様は、それぞれ会長席・副会長席へお願いいたします。

## 6 会長、副会長あいさつ

(事務局)

それでは、三浦会長にごあいさつをお願い申し上げます。

(三浦会長)

ただいま、会長を仰せつかりました三浦でございます。

先ほど、市長から総合計画審議会は、長野市の方針を決める重要な審議会であるというお話があり、非常に責任の重い立場ではありますが、よろしくお願ひしたいと思います。

皆様の自己紹介にもありましたが、この地域の抱える課題をどのように解決していくのか考え、将来に向けての提言ができるように、精一杯皆様と審議していきたく思いますので、よろしくお願ひいたします。

(事務局)

ありがとうございました。それでは続きまして、副会長にごあいさつをお願い申し上げます。

(園原副会長)

長野県栄養士会の園原でございます。

大変なお役目をいただきましたが、会長を補佐しながら、スムーズに会議が進むよう、お手伝いをさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

## 7 議事

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、審議に移らせていただきますが、議長につきましては、長野市総合計画審議会条例第6条の規定により、三浦会長にお願いいたします。よろしくお願ひいたします。なお、審議については事務局としましては正午を目途にお願ひしたいと思います。

(三浦会長)

それでは、議事に入ります。

議題の(1)から(4)について、事務局から一括して説明をお願いします。

(事務局)

－ 資料に基づき説明 －

(三浦会長)

事務局からの説明がありました。

それでは、これからしばらくの時間を利用して、意見や質問があればお願いしたいと思います。

(山口委員)

ただ今、計画について細かく説明いただきましたが、多岐にわたっており、これから自分たちは、何をどのようにしていけばいいのか教えていただければと思います。

(川北委員)

長野市では事務事業評価を行っている、ホームページで拝見しましたが、市民アンケートと基本施策指標と事務事業評価との関係はありますか。

(事務局)

ホームページでご覧いただいたものは、具体的に個別の事業を評価していると思いますが、ここでは、それらの細かな事業を包含する施策についてお話しています。その施策をもとに、たくさんの事業がぶら下がっているというイメージです。個々の事業についての評価の結果は、ホームページのとおりですが、それらを合わせて施策を評価していくという階層になっています。

(金井委員)

先ほど、この審議会の目的は、第五次長野市総合計画の策定だとお聞きしましたが、現状の課題等を踏まえて考えないと、第五次をどのように進めれば良いかということが見えにくいと思います。今後の作業としては、私たちが第五次の課題抽出までやるのか、それとも事務局で提案していただけるのかお聞きしたいと思います。

(事務局)

今後の審議会の進め方としては、事務局案ですが、第五次に向けて現状を確認するとと

もに、課題を抽出するという作業が必要になってくると思います。少し先になりますが、この審議会をお願いしたいと思います。もちろん、その材料になるものは事務局でご用意しますが、最終的には委員の皆様へ課題についてご確認いただくことが必要になってくると思います。

(三浦会長)

非常に分野が多岐にわたるのですが、今後、作業部会のようなものを設置する予定はありますか。

(事務局)

すぐということではありませんが、来年度にかけて計画を進めていきたいと思っています。実際に策定していく段階では、会長さんがおっしゃったとおり分野が多岐にわたるので、分野別の部会が必要であろうと考えています。

(白石委員)

市民の方は、総合計画の存在を承知していないと思います。

満足度調査等を行っていると思いますが、第四次の時には、策定の段階で、パブリックコメントの他に、アンケートや市民向けの説明会等を行ったことはあるのでしょうか。また、第五次に向けてはどのようにお考えですか。

(事務局)

第四次長野市総合計画の213ページに、「第四次長野市総合計画策定に係る市民参加等の状況」について記載がありますが、前回の策定に際しては、ご覧のような市民参加をお願いした経過がございます。

あくまでも事務局案ですが、第五次策定時には、第四次と同じ方法に加え、他に何かないか検討しているところです。委員の皆様からもご提案いただければ、検討して参りたいと思います。

(三浦会長)

第四次の現況についてのご意見等がありますか。

先ほどのご質問にも、少子化についてのお話がありましたが、第五次に向けて市として解決していきたい大きな課題を2、3つ挙げることはできますか。

(事務局)

今後、第五次策定の方針案を決めていかななくてはいけないと思います。課題を見ながら方針を決め、その方針に従って計画を策定していくという手順になると思います。策定方

針の検討の段階で、全体の流れ、つまり課題の解決方法の方向性を決めていくのではないかと考えています。

(三浦会長)

中央官庁では、こういった計画の立て方について、2、3年前から、課題を解決しながら積み上げていくことで将来像を描いていくという、積み上げ方式ではなく、まず20年、30年先の地域の将来像を作ってから、実現に向けてのプロセスをとった方がイノベーションが起きやすいと言われていています。この審議会でも、そのようなアプローチもあり得ると思いますが、いかがでしょうか。

(事務局)

そのとおりだと思います。

(三浦会長)

この地域をどうしていくか考えた時に、10年、20年後どのようになっていけば私たち市民が幸福かということ、皆さんで議論できれば審議会として非常に良いと思います。

それでは、総合計画についてのご議論はここまでにして、次に、人口減少時代に対応したまちづくりに関する提言について、ご意見、ご質問をいただきたいと思います。

少子化問題について議論する時に、増田レポートがきっかけだと言われますが、日本では縦割りの少子化対策について動いているようで、どこかの会議で国土交通省の方が「増田さんに先を越された」と言っているのを聞いたことがあります。

長野市を一括して見ると、広い中山間地域を含んで平均化してしまうので、もう少し細かい地域で見ると、人口減少が少ない地域と多い地域がわかると思いますが、そういった分析データはお持ちでしょうか。

(事務局)

そのようなデータは、現在持ち合わせていません。

(三浦会長)

前審議会委員の皆さんがまとめられた、人口減少時代に対応したまちづくりに関する提言を拝見して、地方に人を呼び込もうとした時に、進学校はあるのか等、子どもの教育についての議論をよく聞くので、それについての意見もあったら良かったと思いました。信州の中核都市としての長野市は、外国人を含めてたくさんの人を呼び込める環境にあると思います。

信州大学教育学部の結城先生のご指導で、オリンピックレベルのスケート選手が育っていますが、長野市にエムウェーブがあるのに、全国レベルの小中学生があまり出てこない

のが残念です。長野市は、インフラをたくさん持っているのですが、それをどういにかするか考えなくてはいけないと思います。

(山口委員)

鬼無里では、極端に子どもの数が少ないのですが、中心部には子どもが増えて教室が足りないという学校もあり、同じ長野市でも全く状況が違います。対策として特色のある学校づくりをしていく場合にも、地域によって温度差があると思うので、この審議会ですらどういったことをやっていけば良いか議論をしていきたいと思っています。

(白石委員)

川中島、更北、篠ノ井等、長野市の南部は人口が増えている地域が多いのですが、私の住んでいる松代地区は人口が減っています。松代地区でも、市の支援をいただいて長期計画を作ったのですが、その議論の中でどうして人口が減るのか考えた時に、一番は交通問題が関係していると思います。特に公共交通がしっかりしていれば、こんなに人口が減ることはないということが明確になりました。

同じ長野市の中で、過疎と過密が混在しているので、コンパクトな都市機能を持った核をたくさんつくって、公共交通で結んでいくべきだという結論に至りました。

松代として、定住人口と交流人口のどちらを増やしていくのかという議論が出ました。定住なのか交流なのかはっきり明確にした戦略は当然あり得ると思います。

(上野委員)

公募委員の選考時にも、人口減少に関するテーマで小論文を書きましたが、人口減少と少子化は違うと思います。

少子化は、国でも対策をどうしたら良いかわからない問題だと思います。私の周りを見ても、20代、30代で経済的に子どもを産めないという人たちが多くいます。ここで、そのことについて議論をするよりも、都会から長野市に移住する人をどのように増やすかということに重点を置いた方が現実的だと思います。

(三浦会長)

いかに長野市に来てくれる人を増やしていくかということだと思いますが、その逆が東京一極集中だと思います。私も、以前東京近辺に住んでいましたが、東京の郊外に住むなら、新幹線で通勤もできる長野に住んだ方が快適だと思います。そういった点をアピールしていけば、もっと人が集まって、結局子どもも増えるという良い循環ができると思います。



(塚原委員)

私も、少子化と人口減少は、一緒には考えられないと思います。子どもを増やしていく対策と、人口が減っていく現象への対策の両方を考える中で、どこかで一致する点があるのではないかと思います。子育てがしやすい環境だと、子どもは増えていくと思います。

私も、公募委員の選考時に小論文を書きましたが、今はマンションがたくさん建てられていて、その周りの学校では子どもの数が増えて教室が足りず、プレハブの校舎で勉強をしています。一方で、子どもが減ってしまい、教室が余っている学校もあります。同じ市の中でも学校の状況は両極端です。子育て世代が長野市で子どもを産みたい、長野市で教育を受けさせたいと思えるような環境づくりを踏まえていただけるとありがたいです。

(本間委員)

私は、4年前に妻の出身地である長野市に移って居を構えました。私自身、36年間東京に住んでいて、若い人は一度は都会の暮らしに憧れるものなので、それを否定するのは無理だろうし、両方で生活してみて初めて長野の良さがわかるのです。

若い人には、一度都会に出ていろいろ経験してもらい、それでもまた長野に戻ってきたいと思ってもらえるように、子どもの頃から長野を愛する気持ちを育てる教育が必要なのではないでしょうか。長野を離れた人が、また長野に戻ってきたくするような環境をどうつくるか考えた方が良いと思います。

(山浦委員)

皆さんのご意見を聞いて、大変参考になりました。皆さんにも、いろいろな夢や考えがあり、漠然と話していたのでは計画の方向性が見えないので、第四次総合計画の施策について1項目ずつ皆さんのご意見を聞いていくことが大事だと思います。分野別の部会をつくるのは良い案だと思うので、話をまとめていただき、審議会で報告していただきたいと思います。

(柳沢委員)

別冊「人口減少時代に対応したまちづくりに関する提言について」の37ページを見て、今後、総合計画審議会で考慮が必要な視点をいくつかお話させていただきます。

まず、総合計画で議論するときの枠をどこまでにするかを考慮しなくてはいけないと思います。37ページを見ると長野市の総合計画なので、当然長野市の中に限定されたまちづくりの意見が多いのですが、例えば交通の関係だと、長野市の周辺にも高速交通網が来ているので、今後ますます長野市外、長野県外との競合が起こってくると思います。高速交通網が、長野市を含む関東、北陸、関西を周回する形になってきているので、対策を考えないと人が長野市から競合する地域に持っていかれてしまいます。しかし、高速交通網がある地域と連携をして、相互に助け合って交流を進めていけば、逆に長野市に人を引き込

むチャンスにもなると思います。

先ほど、白石委員さんから過疎の話がありましたが、長野市だけでなくすべての自治体で、コンパクトシティの概念に基づいたまちづくりを進めようと構想されています。こういった理念は既に出来上がっていますが、今後いかに具体化していくかが大切になります。国も、都市のリノベーション(再構築)ということを掲げていますが、事業化する際、具体的な策がなくては予算づけしないとやっているの、よりシビアな議論をしていかなくてはいけないと思います。

一方で、市の中心に人を集めるコンパクトシティの考え方と相反し、郊外や中山間地域で人が減ってしまい、空き家の問題も出てきています。どうやってコミュニティを維持、形成していくかということが課題になってきます。都市の拠点化と周辺のコミュニティの形成について、どうバランスを取っていくか検討していかなくてはならず、非常に大きな課題だと思います。

また公共交通に関わっているのですが、現在長野市の公共交通のビジョンを検討しています。いかに利用者に自ら使ってもらうか、部会をつくって検討を進めていくところです。移動手段を持っていない方はバスを頼るしかないのですが、利用者が少なくはバスを存続させることは難しいのです。バス事業者も懸命に取り組んでいますが、公共交通の望ましいネットワークの形成まで踏み込むことは難しく、バス事業者が自らの運行計画に基づいて、路線単位で維持するか廃止するかを考えてしまっていることが問題なのです。その地域にとって、どんな目的の移動に対してどのような運行形態の公共交通が必要なのかをしっかりと認識しないといけないと思います。移動手段の質の保証が大切になってきます。

行政、バス事業者、地域がバス路線をどう守っていくかということ合意形成する仕組みが必要なのですが、それがなくて、バス事業者の運行計画に基づいてバス路線が廃止されてしまうのです。いかにそれぞれの役割分担を持って、お互いに協力して地域の足を守っていくかという新しい仕組みについて、この総合計画で提言していきたいと思います。

(三浦会長)

以上で、意見交換を終わります。

他になければこれで審議を終わりたいと思いますが、事務局から何かありますか。

(事務局)

今回の日程と内容につきましてご案内いたします。今回は 11 月 7 日 (金) 午後 1 時 30 分からこの場所で開催したいと考えております。

内容につきましては、本日ご説明いたしました基本施策の指標に関する現地の視察を予定しております。今後、次期総合計画策定を控えておりますので、いわゆる現場を視察いただきたいというものでございます。つきましては、いくつかのコースを設定の上、皆様方のご希望のコースを実際にご覧いただきたいと考えております。

後日、書面でご案内させていただき、ご希望をお聞きいたしますので、ご協力をお願いいたします。

以上をもちまして、閉会いたします。ありがとうございました。